

「特別活動に関する科目」の実践研究

— 教師教育におけるアクティブ・ラーニングの意義と課題 —

田 代 裕 一

A Case Study on the Teaching of Subject

for Extracurricular Activities :

The Significances and Problems of Active Learning

in Teacher Education

Yuichi Tashiro

I はじめに

今日、大学を含む学校教育全体においてアクティブ・ラーニングの必要性が提唱され、その実施が喫緊の課題とされている。一般的に、アクティブ・ラーニングは「課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習」¹⁾とされている。大学（高等教育）の分野では、従来のような知識の伝達・注入を中心とした授業から、能動的学修（アクティブ・ラーニング）への転換、「…すなわち個々の学生の認知的、倫理的、社会的能力を引き出し、それを鍛えるディスカッションやディベートといった双方向の講義、演習、実験、実習や実技等を中心とした授業への転換によって、学生の主体的な学修を促す質の高い学士課程教育を進めることが求められる」²⁾という主張がなされている。

大学教育の分野でも、とりわけ教職課程において、このようなアクティブ・ラーニングを取り入れた授業が強く求められている。2015年、中教審答申は、「子供たちに、知識や技能の修得のみならず、これらを活用して子供たちが課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力及び主体的に学習に取り組む態度を育む指導力を身に付けることが必要である。その際、課題の発見・解決に向けた主体的・協働的な学び（アクティブ・ラーニング）の視点に立った

指導・学習環境の設計や ICT を活用した指導など、様々な学習を展開する上で必要な指導力を身に付けることが必要である」³⁾と述べて、アクティブ・ラーニングを展開できる指導力を学校教師が身につける必要性を指摘している。

さらに、大学の教職課程において以下のような授業を行うよう、提言している⁴⁾。

- ・アクティブ・ラーニングに関する指導力や適切な評価方法は、全ての学校種の教員が身に付けるべき能力や技能であり、教職課程において、これらの育成が適切に行われるよう、児童生徒の深い理解を伴う学習過程やそのための各教科の指導法に関する授業等に取り入れていくことが必要である。
- ・また、アクティブ・ラーニングの視点からの教育の充実のためには、教員養成課程における授業そのものを、課題探究的な内容や、学生同士で議論をして深め合うような内容としていくことも求められる。

大学の教職課程においてもこのような授業は確かに必要であろう。しかし、学生の活発な活動が表面的にただ多くなされればよいというのではなく、重要なことは学生が深く考えることではなかろうか。現在の教育活動においては、反省的実践家⁵⁾ (reflective practitioner) という、自他の教育実践に対して多面的に深く考察を行うことで自らの力量を高め、複雑な状況・関係を的確に判断して事態に対応できる高度な実践「知」を持つ教師が求められているのである。この点に関して、示唆に富むのは松下佳代氏のディープ・アクティブラーニングという提案である。氏は次のようにいう⁶⁾。

ディープ・アクティブラーニングでは学習の「深さ」に目を向けるが、「深さ」の系譜として、少なくとも「深い学習」「深い理解」「深い関与」をあげることができる。アクティブラーニングにおける能動性を、〈内的活動における能動性〉と〈外的活動における能動性〉の2次元で捉えれば、ディープ・アクティブラーニングとは、外的活動における能動性だけでなく内的活動における能動性も重視した学習ということができる。

この著書の中では活動に焦点を当てた指導、内容の網羅に焦点を当てた指導の双方の問題（双子の過ちと表現されている）も指摘されている⁷⁾。

*上記での下線はいずれも筆者（田代）による。

Ⅱ アクティブ・ラーニングを取り入れた教職課程の授業実践の試み

学校教育における「特別活動」は、現行の学習指導要領（2008年3月）にも記されている通り、その目標として「望ましい集団活動を通して」個性や社会性、実践的な態度、自己を生かす能力を養うとしており、そもそもアクティブ・ラーニング的な活動だといえる。とすれば、特別活動を現場で担う教師も、当然、アクティブ・ラーニングについて経験的に理解しておく必要があるといえよう。このような課題意識に立って、筆者が担当している本学の教職課程科目である「教科外活動の研究」（本学ではこれが「特別活動に関する科目」に相当する）において、アクティブ・ラーニング的な活動を取り入れることを試み、その活動の意義や課題について、アンケート調査といった量的アプローチ、および指導活動の振り返り（授業ごとに*印の後に記述している）や学生のコメントの分析といった質的アプローチの双方を用いて、考察した。

本科目の概要およびシラバスは以下の通りである。本講義では、特に後半の授業で、話し合い（議論）活動を重視し、かつ深く考えることを促進しようと努めた。

「教科外活動の研究」 2015年度後期（田代担当）特別活動に関する科目
2単位（全学教職課程科目…中学校免許必修 高校免許選択必修）
受講者40名 最終レポートを出して単位を修得した者32名
〈シラバス〉

○目標

教科外活動としての「特別活動」の目的・構成、歴史的変遷、指導方法、評価、等について概説し、理解を深める。さらに、学習指導要領を基に「特別活動」の各領域について詳しく検討し、実践事例を分析して、特別活動の実践的指導力の基盤を培う。スピーチやグループ活動、指導案の作成、

模擬指導など体験的な活動も行う。

(総論)

第1回 教科外の特別活動の目的や全体的な内容構成について、学習指導要領などをもとに概説する。

第2回 特別活動の歴史の変遷について、具体的事例に触れながら検討する。

…戦前編

第3回 特別活動の歴史の変遷について、具体的事例に触れながら検討する。

…戦後編

第4回 特別活動と教科学習との相互関連のあり方を検討する。

第5回 特別活動における子ども理解の必要性、その諸方法について概説する。

第6回 特別活動における集団指導・個別指導の方法について、事例検討により理解する。

(各論)

学習指導要領をもとに、各領域について細かく解説する。学生は具体的実践事例を検討し、グループ活動を行う。

第7回 学級活動、ホームルーム活動①(1時間の学級活動、LHR)

第8回 学級活動、ホームルーム活動②(朝の会・帰りの会、SHR)

第9回 学級活動、ホームルーム活動③(模擬指導活動)

第10回 生徒会活動

第11回 学校行事(概論)

第12回 学校行事(事例研究)

第13回 特別活動の指導案の作成(学級活動、ホームルーム活動)

第14回 特別活動の指導案の作成(学校行事)

第15回 特別活動の教育評価(事例検討)

○成績評価の方法

課題コメントの提出・スピーチ・グループワークの課題提出、最終レポートによる。

○実際の展開

シラバスは前述の通りであるが、実際には以下のような展開であった。特に後半は、授業の自然な流れや議論の盛り上がりを重視したこともあって、順番を変えるなど、やや「エマージング・カリキュラム」的になっている。ただ最終的に、予定していた内容は大体、取り扱っている。

- ①特別活動の意義・内容 話し合い（自分が体験した特別活動）
- ②総論（特別活動の変遷 戦前）
- ③総論（特別活動の変遷 戦後①） 議論（組体操）
- ④総論（特別活動の変遷 戦後②） 議論（国際交流）
- ⑤総論（特別活動と教科学習との相互関連） 議論（関連の提案）
- ⑥総論（特別活動における個別指導について） 軽い悩み相談
- ⑦総論（特別活動における集団指導について①） 構成的エンカウンター
- ⑧総論（特別活動における集団指導について②） ピアサポート
- ⑨各論（学級活動・ホームルーム活動①） 指導案作成…薬物乱用防止
- ⑩各論（学級活動・ホームルーム活動②） 指導案作成…読書活動の推進
- ⑪各論（生徒会活動①） 模擬生徒会…S学院をよくするには
- ⑫各論（生徒会活動②） 模擬生徒会…S学院の図書館の利用について
- ⑬各論（学校行事①） 模擬職員会議…体育的活動 運動会のプログラム作成
- ⑭各論（学校行事②） 模擬委員会活動…文化的活動 文化祭への参加
- ⑮特別活動の教育評価 自己評価の試み

○各回の授業内容・方法 …関係資料に基づく「振り返り」

以下、時系列に沿って、カリキュラムの展開と各回の授業内容・方法を述べる。2回目から、授業のルーティンワークとして、「前回の授業の振り返り」、および「学生のスピーチ」を行った。授業の振り返りは、各回の授業の終わりに出させたコメント表等の一部をコピー（学生の名前を消去 4名から8名程度）して学生に配布し、筆者がさらにコメントするもので、前回の授業を多面的に復習する意図で行った。また、スピーチは学生が2分程度で、一つのテーマ（自分の趣味、好きなこと、楽しかった経験、大変なこと、など教室で話し

でも差し支えないこと)で、教壇に立って話してもらう活動である。これは、教育実習で生徒とコミュニケーション活動をとるための練習であり、原則、全員が行う。またこのスピーチ自体が朝の会、ショートホームルームなどで実際に行われる特別活動でもあり、まず生徒として体験してみることも意図した。各回3名程度で行った。活動の際の班編成は、授業ごとに近くの席に座っている者どうし3、4名で臨時に作らせた。

なお、以下の活動の記述で、太字の箇所はアクティブ・ラーニング的な活動と筆者が考えたものである。また、活動例は、その授業での活動をよく反映していると思われた班や個人の事例を選んで掲載した。

第1回 特別活動の意義・内容 2015 9/17 (授業日)

- ・教科外の活動における「特別活動」の位置や、特別活動の目的・意義・内容について学習指導要領を基に概説。
- ・本講義の進め方(学生のスピーチ、班での活動・発表)や成績評価の仕方(授業での活動・課題作成・発表、最終レポート)を説明。
- ・班を臨時に編成(3~4名 席の近いものどうしで8班から9班)。以降もこの方式で班をその都度、作るように指示。
- ・班ごとに分かれて、司会、記録係を決め、中学校・高校時代を中心に、受講生が体験した特別活動で特に印象に残っていること(よくも悪くも)について話し合いをするよう指示。
- ・班での話し合い。
- ・各班の発表。
- ・用紙を提出させて、授業を終了。

*班での話し合い。

(その一例) 3名グループ(女子3名)

〈振り返り〉

(1) 文化祭

クラスごとの出し物がなく、文化系の部活動生の出し物しかなかった。

(2) ホームルーム

靴下の色を白から黒に変えるという話し合いが行われ結局行われなかったという意味のない話し合いの時間。

(3) 運動会

平日に行われたので、保護者が来れなかった。先生がダンスを考え、有無言わず踊らされた。

(4) 卒業のミサ

キリスト教の子どもだけ祝福され、その姿を見なければならなかった。

(私立)

〈意見〉 (*田代注 上の(1)~(4)に対応している。)

(1) 帰宅部の人たちも同様に楽しめるように、クラス単位で出し物をした方が良い。

(2) ホームルームをもっと有意義な時間にした方がいい。

(3) 土日にして保護者が来れるようにする。生徒達でダンスを作る。

(4) キリスト教の子だけです。

その他の班の報告では、「タンブリング長(組体操の総指揮)をやらされて大変だった」「文化祭や体育祭の騒音について近所に生徒会があらかじめ謝罪に行った(先生に行かされた)」、「愛校作業という時間が設けられていて、草むしり、窓ふきなどを行った」といった記述がみられた。

*この班の報告では、生徒の参加という観点から、自分たちの体験した特別活動の課題と改善方策が丁寧に述べられており、体験の振り返りがよくできていると捉えられる。

第2回 総論（特別活動の変遷 戦前） 9/24

- ・ 学生のスピーチ（3名）。
- ・ 前回、班ごとに話し合って記述した内容（自分の特別活動の経験）を配布し、振り返り。
- ・ 戦前の日本の特別活動の変遷について、資料を配布して概説。
- ・ 授業へのコメントを書かせて、授業を終了。

第3回 総論（特別活動の変遷 戦後①） 10/1

- ・ 学生のスピーチ（3名）。
 - ・ 前回提出したコメント表の振り返り。
 - ・ 戦後の日本の特別活動の変遷について、前回、配布した資料をもとに概説。
 - ・ 時代や社会状況と特別活動が関連していることを説明。
 - ・ 今、見直しが迫られている特別活動の事例として「組体操」を紹介。
 - ・ 公立S中学校（架空）では「組体操を来年度も、従来通り行うべきか否か」、職員会議として議論し、用紙に記入するよう指示。
 - ・ 班での話し合い。
 - ・ 各班の発表。
 - ・ 用紙を提出させて、授業を終了。
- *当初、この回では組体操の検討をする予定ではなかったが、ちょうど社会的に大きな問題として取り上げられている時期であったので、急遽、取り上げることにした。

*各班からの提案

（その一例）4名グループ（男子1名・女子3名）

〈現状〉伝統を大切にしている。クラスのまとまり/団結力 保護者向け（見る人向け）やるのが当たり前でずっとやってきたので、やめられない、やらざるをえない雰囲気
〈クレームきたら〉

生徒がやりたいかやりたくないかを優先すべきだが …（本音

大怪我はさげたいのでやめさせた方がいいと思う)

全員に選択性にするのかはどうか？



★自らの意志で参加型 → ただ人が集まらず、8段できない可能性もある

〈その他に出た意見〉

- ・上にいる人は花形だが、下の人は苦しいのでは？
- ・上の人も高所恐怖症だったら辛い
- ・立体ピラミッドの中間層の人たちは周囲からも見えないし、きつい
- ・怪我のリスクも高い

その他の班の意見でも、「安全は確保し、危険な技の場合は難易度を下げたり、教師が付き添うなどをして実施すべき」「やりたい男子のみ自己責任で行う（種目決めの際、リスクがあると説明）」「ピラミッドのかわりに集団行動 生徒たちが組体操の構成を考える」「班内で組体操をしないとしないの意見が出て、まとまらない」「やめる 8段を5段にして続ける 保護者にアンケートを実施 生徒にもアンケートかディスカッション」「8段を5段にして続ける ピラミッドを一気に崩すのはやらない」「アンケートでしたい人だけやる」「運動が得意な人たちだけですべきだ」といったもので、何らかの改善が必要だとする提案がほとんどであった。

*これらの報告では、保護者のクレームへの対応や、ケガへの対応として、選択的な要素を取り入れる（組体操はやりたい人、得意な人がやる）という提案が多かった。それも確かに一つの方策ではあるが、例え自由意志による希望という形で組体操を行っても、それで学校が十分に責任を果たしたとはいえないのである。この点に関して、もっと補足説明が必要であった。

第4回 総論（特別活動の変遷 戦後②） 10/8

- ・学生のスピーチ（3名）。
- ・前回提出したコメント表の振り返り。

- ・戦後、特別活動において国際交流活動も行われるようになったことを説明。
- ・熊本高校と英国イートン校（パブリックスクール）との交流会のビデオを視聴
- ・班に分かれて、ビデオの感想、自分たちが体験した交流活動、やりたい国際交流活動について話し合い、まとめるよう指示。
- ・班での話し合い。
- ・各班の発表（3つの班）。
- ・用紙を提出させて授業を終了。

第5回 総論（特別活動と教科学習との相互関連） 10/15

- ・学生のスピーチ（3名）。
- ・前回提出した提案（やってみたい国際交流）の振り返り。
- ・特別活動と教科学習との関連化の要点について説明。
- ・I 農業高校の事例（「ミニ動物園」）のビデオ視聴。
- ・班で視聴ビデオの感想および提案（特別活動と教科学習の関連化について提案）を話し合し合うよう指示。
- ・班での話し合い。
- ・用紙を提出させて授業を終了。

*各班の提案

（その一例） 4名グループ（男子4名）

〈感想〉

- ・ただ、子どもに触れ合わせるだけでなく、イベントの計画を立てるのは良かった（動物のことを教える）。
- ・高校生も動物を通して、子どもとつながることができていた。
- ・触れ合える機会づくりもでき、うらやましい。

〈提案〉

- ・高校のとき、アイス売って利益を上げる→商売、お金に関する勉強に
(社会)
- ・裁判に見学に行く→実際に社会の仕組みを知る

- ・小学校のクラブ活動、遊ぶクラブで釣りに行ったり貝を掘ったり→生物とか理科につながる
- ・クラブで空き缶でコメをたく→家庭科

*この班は、一応、特別活動と教科学習の関連についても考えていたが、他の班からは、ビデオの感想や一般的な特別活動の提案はよく出ていたが、特別活動と教科学習の関連になっている提案はあまりなかった。これは課題が少し難しかったといえる。短い時間ではなかなか簡単にその関連化を図るということは思いつかないのかもしれない。

第6回 総論（特別活動における個別指導について） 10/22

- ・学生のスピーチ（3名）。
- ・前回提出したコメント表の振り返り。
- ・特別活動に関して、個々の生徒を理解することの必要性、その方法について事例を用いて説明。
- ・「軽い悩み相談」として、下記の項目について各自、コメント表に書いた上、2ないし3名で相談し合い、助言を出すよう指示。
〈記入する項目〉
 - ①今、自分が少し悩んでいること。
 - ②その原因・理由。
 - ③解決のためにどうすればいいか…具体的な手立て。
 - ④本当にその手立てが可能か…見通し。
 - ⑤解決したかどうかの確認…評価方法。
- ・「軽い悩み相談」活動の実施
- ・本活動への感想（コメント）の発表（3名）
- ・コメント用紙を提出させて、授業を終了。

* 学生のコメント ⑤の後の*の箇所は本活動についての学生の感想。

Mさん

①課題を前日までためてしまい、徹夜することが多い。

②まだしなくても大丈夫だと思ってしまう。

③課題を出された日にすぐやる。早く帰る。

④可能

⑤課題をあせってしなくなったら克服。

* 悩みを肯定的に捉えてもらうことで、とてもスッキリした。また、他人の悩みをきくことで自分の生活を見直すこともできた。

Kくん

①マンションのゴミ捨て場をネコが荒らしまくっている。

②ゴミ捨て場にネコが簡単に侵入できる。

③不動産屋に電話をする。

④可能

⑤自分で確認しに行く。

* 自分で解決できる悩みとできない悩みでも話し合えば意外と解決できるものもあるんだなと思いました。

* この「軽い悩み相談」に学生たちは積極的に取り組んでいた。コメント表をみても、他者との話し合いが、他者の肯定的受容によって気持ちの解放につながったり、自分とは異なる考えを得ることになったりして、意外と効果があったことが見て取れた。筆者の重視する reflective thinking の形成につながる点があり、もっと、こういった相談活動を授業で取り入れてもよいと思った。なお（安易な方法だが）、ここで、〇〇さんは女子学生、〇〇くんは男子学生を表している。以下も同様。

- ・ 前回提出したコメント表の振り返り。
- ・ 集団、特に学級集団の特質について概説。
- ・ 構成的エンカウンターについて説明。
- ・ 構成的エンカウターのビデオ視聴（鹿嶋真弓先生）。
- ・ 班ごとに構成的エンカウターの活動（無人島 SOS）を実施するよう指示。
- ・ **各班で構成的エンカウンター活動を実施。**
- ・ 本活動についてのコメントを提出させて授業を終了。

コメント課題：

「本講義や今回の体験活動を踏まえて、『構成的エンカウンター』の意義と思われる点、および、実施する際に教師が留意すべき点についてコメントして下さい。」

* 学生のコメント

Nさん

構成的エンカウンターをすることで、一人一人の見えなかった価値観が顕著にみえより一層お互いのことが分かる。自分の価値観とちがうところ、一緒のところが見つければ、理解力も高まり仲が良くなると思う。教師は、みんなそれぞれ考え方がちがうということを生徒たちに教えるべきである。無人島の SOS の話し合いも、見えなかった部分がみれて良かった。

Pさん

今回の無人島 SOS を通して、自分が問題に直面した時にどのような行動をとるかを改めて考え直すきっかけになった。これを共有し合うことで、友人どうしの価値観の違いや考え方の違いにふれ、今まで共にすごしてきたのに気づけなかった友人、そして自分自身の新たな一面に出会うことが意義であると思う。教師は選択肢をよりくわしく与えるが、考え方を固定化しないように自分のアイデアは発言しないようにするのが大切だろうと考える。

*無人島 SOS は自分の授業で今回、初めて取り入れたものであるが、学生の活動も活発であったし、上記の学生に記述にもみられるように、その意義や指導の際の留意点も比較的良好に理解できているようであった。ただ、他の学生のコメントには「10の権利」のようにストレートに相手の価値観がわかるものがよいというものもあった。本時の活動は他者の価値観を間接的に把握するというものでもあるので、価値観が直接的に表れる活動と比較して、どのような時に用いたらよいか、といったその使い方・場面ももう少し考えさせればよかった。

第8回 総論（特別活動における集団指導の方法について②） 11/5

- ・学生のスピーチ（3名）。
- ・前回提出したコメント表（抽出して印刷）の振り返り。
- ・「ピアサポート」や「いじめ判決文」を用いた授業のビデオを視聴
- ・班ごとに分かれて、いじめ防止につながる学級活動を考え提案するよう指示。
- ・班で話し合い。
- ・用紙を提出させて、授業を終了。

*班からの提案

（その一例） 3名グループ（男子2名 女子1名）

〈感想〉

- ・ピア・サポート もしやるならこちらの方がいい。相手の気持ちを理解できるようになりそう 根本的な案
- ・いじめ判決文の授業 直接的 意味がないように感じる クレイゴトにおわるのでは？

〈提案〉

- ・そもそも…学校でのランクづけ 縦社会（学校のシステム）がいじめをうむのでは？
どれくらい生徒に立ち入っていいか分からない…
- ・ピアサポートのように早い段階からコミュニケーションの大切さを自然

に学べるものをコツコツする

- ・自分とは違う価値観の存在に気づかせる（グループエンカウンター）

*「いじめ問題」への対処として、いじめ自殺の判決文を用いた授業とピアサポートの授業を比べると、ピアサポートの授業が良いのではという意見が多かった。しかし、いじめ自殺の判決文を用いた授業も生徒に本音で語る授業を実現しており、非常に重要な意義がある。その点が学生に十分に理解できなかったようで、筆者（授業者である田代）の説明が不足していたように思う。さらに、学校のシステムそのものが問題（いじめにつながりやすいシステム…ランクづけ等）だとする意見もあったが、これは貴重なもので、きちんと取り上げて検討すべきテーマであると思われる。

第9回 各論（学級活動・ホームルーム活動①） 11/19

- ・学生のスピーチ（3名）。
- ・前回の提案（いじめ防止の学級活動）の振り返り。
- ・学習指導要領をもとに学級活動について概説。意義や内容など。
- ・学級活動の指導案（過去の本学の実習生による「進路指導」）の紹介。
- ・福岡市の薬物乱用防止のパンフレットを配布・紹介。
- ・班ごとにわかれて指導案（中学3年生 薬物乱用防止）を作成するように指示。
- ・班で指導案作成。
- ・各班（3つの班）から作成した指導案を発表。
- ・作成した指導案を提出させて、授業を終了。

第10回 各論（学級活動・ホームルーム活動②） 11/26

- ・学生のスピーチ（3名）。
- ・前回提出した指導案（いじめ防止の学級活動）の振り返り。
- ・読書活動の推進に関する資料（文科省）を紹介。
- ・班ごとにわかれて指導案（中学3年生 読書活動の推進）を作成するように指示。

- ・班で指導案作成。
- ・作成した指導案を提出させて、授業を終了。

第11回 各論（生徒会活動①） 12/3

- ・学生のスピーチ（3名）。
- ・前回提出した指導案（読書活動の推進）の振り返り。
- ・学習指導要領をもとに生徒会活動について概説。意義や内容など。
- ・生徒会活動の事例を紹介。
- ・生徒会長を決め、「S学院をよくするには」というテーマで生徒総会を行うよう指示。
- ・模擬生徒会活動を実施。
 班活動 → 全体提案
- ・コメント用紙を提出させて、授業を終了。

〈主な意見〉「S学院をよくするには」

- ・教員の人事権を学生に持たせる（緊張感を持ってよい授業ができるから）。
- ・クリスマスのイルミネーションとかパネルにお金をかけるより、教室の暖房の温度を上げてほしい。…賛成の声多かった。
- ・学院のお金の使い方はどうもおかしいのでは？ 等々

↓

〈結論〉

- ・学費の有効な使用についてもっと考えることが大切（暖房なども含めて）。
- ・本件は継続的な議論が必要。

*学生に意見を出させたところ、いきなり教員の人事権を学生に持たせるという発言が出て、やや意表を突かれた感があった。賛同する意見も出て、学生が本学の授業に関心を持っていること、また一部、不満もあることが理解できた。また、イルミネーションはいらないのではという意見が多く出たが、これはその日が結構寒く、20度の暖房制限の中では教室が温まらない状態

だったので、同じ電気代なら暖房に回して欲しいという考えだったように思える。ただ、司会者（学生）の運営もよくて、話は次第に学院の学費の使い方方向づけられていった。授業後に提出されたコメントには、「イルミネーションがいらないという意見は意外だった、自分はきれいだと思うし」、というものがあつた。このような意見が授業中にあれば議論がもっと深まったので、学生の様々な意見を早めに知って授業に生かすことが肝要だと思った。

第12回 各論（生徒会活動②） 121/17

- ・ 学生のスピーチ（3名）。
- ・ 前回提出したコメント表の振り返り。
- ・ 生徒会活動のビデオ視聴（「制服の変更」に関する生徒会活動、三者協議会）
- ・ 生徒会長を決め（前回と同じ学生）、S大学図書館を24時間利用できるようにすべきか否か（昨年、本講義で提案があつたもの）というテーマで生徒総会を行うよう指示。
- ・ 模擬生徒会活動を実施。
 班活動 → 全体提案
- ・ コメント表を提出させて、授業を終了。

〈主な意見〉S大学図書館の24時間運営の提案に対して

○反対

- ・ 泊まるためだけに利用するものがでる。
- ・ 部活の飲み会の後のたまり場になる。
- ・ ネットカフェ化する。
- ・ 騒いだりして、真面目に勉強しようとするものには、かえって邪魔になる。
- ・ 職員の人の人件費や光熱費など費用がかかる（*前回の議論との関連性あり）。

○一部賛成

- ・ 部活やバイトの後、次の日のレポート提出に間に合わせるために今より少し時間を延長してほしい。

- ・特別の日や特別の人（卒論を抱えている人など）ならよいのでは。
- ・自動貸出し機や返却箱を設置してほしい。



〈結論〉

- ・図書館の24時間運営の要望は経費や風紀の面で問題があるので、採用せず。
- ・利用時間の延長や返却箱の設置などは今後の検討の余地あり。

* 大学図書館の24時間運営という提案は昨年度、本講義でS学院をよくするにはという模擬生徒会を行った際に、一部の学生から出たものである。その時は時間の関係で本格的に取り上げることができなかったが、学生は一般的にどう思っているのか、その意識を知りたいと思っていたので今回取り上げた。また、第11回の話し合いのテーマがやや一般的、全体的だったので、より具体的、個別的なテーマで話し合わせたいという意図もあった。結果として、概ね妥当な線に落ち着いたと思われ、学生が現実的に図書館利用を考えていることがわかった。さらに、人件費の問題など、前回の学費の適切な使用と関連する意見も出ていた。

第13回 各論（学校行事①…体育的活動） 12/24

- ・前回提出したコメント表の振り返り。
- ・学習指導要領をもとに学校行事について概説。意義や内容など。
- ・中学校での運動会（準備）の事例（過去の本学の実習生が提供してくれた資料）を紹介。
- ・公立S中学校（架空）の職員会議で今年秋の運動会のプログラムを作成するように指示。司会…田代（校長として）
- ・班で話し合い。テーマ・競技種目・担当学年などを決定。
- ・各班からプログラム案を発表

・プログラム案を提出させて、授業を終了。班からの提案

(その例①) グループ4名(男子3 女子1)

テーマ 疾走乱舞

- 1 開会式 2 100m走 3 つなひき 4 200m走 5 大玉ころがし
- 6 パン食い競争 8 部活対抗リレー 9 ムカデ競争 10 騎馬戦 昼食
- 11 応援合戦 12 障がい物競争 13 台風の目 14 借り物競争
- 15 組体操 ピラミッドはMAX5段 16 ダンス(女子) 17 保護者リレー
- 18 全員リレー

(その例②) グループ4名(男子2 女子2)

テーマ 団結力

- 1 開会式 2 台風の目 3 大玉ころがし 4 クラス対抗リレー
- 5 ぼう引き 6 騎馬戦 7 障害物リレー 8 ダンス 〈昼休み〉
- 9 玉入れ 10 つな引き 11 大縄 12 応援合戦 13 ブロック対応リレー

*その例①で、組体操の人間ピラミッドを五段までに制限しているところなど、今までの学習の経験(第3回)が反映されており、関連的な思考がなされているといえる。その例②はテーマ(団結力)に即した競技(ほぼ団体競技)を選んでおり、テーマと内容との一致がみられた。ただ、運動会の目的や、全体のバランス上これでよいのかという課題もある。

第14回 各論(学校行事②…文化的活動)2016 1/7

- ・前回の提案(運動会テーマ・種目)の振り返り。
- ・公立S高校の文化祭の事例(化学部のスライムづくり、学級での展示…日本各地の玩具)のビデオ視聴。
- ・公立S中学校田代クラス(架空)は、次回の文化祭に何をするか、というテーマで話し合うよう指示。担当委員として2名を選出。
- ・班で話し合い。教室展示か劇をするか決め、その活動の内容やテーマを決める。

- ・各班で決めた活動を板書。
- ・各班のプレゼンテーション。
- ・クラスとして決定。
- ・班で作成した計画を提出させて、授業を終了。
- ・本講義での最終レポートの提示、説明。：「生徒に自主的・実践的な態度を育成する「特別活動」とはどのようなものか、講義の内容や事例をもとに、詳しく述べよ」

〈各班からのプレゼンテーション 主な意見〉

- ・ワールドグルメツアー ―世界のうまいものを食べ歩き―
- ・田代城攻略！
- ・お化け屋敷
- ・モザイクアート
- ・日本各地の文化の違いを知ろう！（昔遊び～縁日～）
- ・スタンプラリー
- ・劇
- ・早良区の写真を撮り展示しよう



〈結論〉

- ・「田代城攻略！」（展示を中心にしつつも、簡単な寸劇も入れることも可）
+ 早良区の写真展示 これは教室の廊下側で。

*各班の計画

（その例①）グループ4名（男子1名 女子3名）

【展示会】 テーマ：田代城攻略！

- ・城の内部を作る。
- ・忍者体験（だまし絵…美術部の人を作る 天じょうにはりつく 画
びょう投げ ぞうきんすべり）
- ・城の仕掛けを作る（うぐいす張りを作る、ぶちぶちを敷く）

(その例②) 4グループ4名(男子4名)

【劇】

- ・受けを狙える
- ・本番が勝負だからみんな最後までがんばる
- ・目立つことができる、印象に残る、思い出になる。
- ・個々の役割が明確
- ・殻をやぶれる
- ・クラスのきずなが深まる
- ・展示の要素を含む 制作の要素 描く人 役の練習
- ・主人公の寄せ集め(テレビのauのCMみたいな)
- ・ライオンキング
- ・学園ドラマ

*この回は、学生2名を担当委員として司会進行を任せましたが、大変、議論が盛り上がった。各班のプレゼンや、案の採用をめぐって、話し合いが熱心に行われていた。劇を提案したグループは一つだけであったが、その理由はよく考えられており、文化的行事(文化祭)の意義を見直す上で効果があったと思える。田代城というのは、筆者の趣味(歴史…城巡り)を学生が配慮?してくれたようで、一応、多数決で決まった。田代城「攻略」というテーマはダイナミックな感じで面白く、例えば訪問者がクイズなどをしながら大手門から本丸までたどり着くとか、そういう活動を想定できるであろう。しかし、忍者体験などもあげていて、実現可能性からみると困難な点もある。一方、早良区の写真展示は、教室の廊下側などで併用的に行えるとして採用された、地味でも地域・郷土を見直すことに通じている。この科目(教科外活動の研究)の発展学習としても実際に行うことが可能であり、今後留意しておきたいと思う。

- ・前回の提案(文化祭への提案)の振り返り。

- ・特別活動の評価方法について具体的事例を紹介して概説。
- ・この講義での学習について各自、自己評価（自己点検・振り返り）を行うよう指示。
- ・自己評価の試み。3つの観点を設けて、コメント表に自由記述。
- ・コメント表の発表（3名）。
- ・本授業に関するアンケートを記入。
- ・コメント表、アンケートを提出させて、授業を終了。

* 学生のコメント表（自己評価）…比較的、その学生の学びの特徴がよくわかる回答例を選んだ。

A くん

【関心・意欲・態度】

スピーチや班活動では積極的に発言したり、考えたりできた。改善すべきところは先生の話の時に集中できないこと。

【思考・判断】（ママ）

どんな体育祭にするのか、文化祭では展示か劇かを自分の考えをもって発言・説明、また他の人の意見をしっかり聞くことができた。

【知識・理解】

具体的な活動方法を知ることができたが、学習指導要領と対比させることが少なかったので、活動の理解が浅い。

B さん

【関心・意欲・態度】

全体的に、興味を持って授業に取り組めたと思う。クラスの人々のスピーチでは、皆の話を楽しみながら聞くことができたし、自分のスピーチも事前に用意して話すことができた。また、ビデオなどでは、習ったところがどんな場面で活かされているかなどに注目して観ることができた。

【思考・判断・実践】

この分野はどの授業よりも一番よくできた。生徒にとってどのような体

育会がいいのか、生徒だったら、どんな意見を出すのだろうと生徒の立場に立つことで、話し合いを有意義なものにできた。また、グループの人の話も聴くことで自分の意見がより深まった。

【知識・理解】

この授業がどのような場面で生きてくるのかなどは理解できた。しかし、あまり戦後の特別活動の変遷などは覚えきれていないのでそこが課題だと思う。

Cさん

【関心・意欲・態度】

話し合いに積極的に参加することはできた。しかし欠席や遅刻を何度かしてしまった。

【思考・判断・実践】

与えられた課題について班の人と意見を交換することができ、新しい考え方を身につけることができた。反省点は、時間内に班の意見をまとめることができなかったことである。

【知識・理解】

今までは生徒として授業や学校行事に参加していたが、初めて教師側で、特別活動について考え、同僚の先生方との話し合いの重要性、難しさ、活動に対する教師の責任について学ぶことができた。

*下線は筆者によるもので、アクティブ・ラーニングの観点から見て注目すべきと思える箇所に引いた。

Aくんは活動の面では積極的であったが、教師の説明を聞くことや学習指導要領との関連的理解が課題であったと述べている。実際、Aくんはスピーチでも写真など補助資料を用意し、受講生に質問もするなど（後述のアンケートで評価されている「ブロッコリーのスピーチ」）、意欲的であった。グループ活動でも静かではあるがはっきりと自分の意見を出していた。また、各回の授業コメントも長くはないが自分なりの視点から明確に考えを述べて

いた。ただ、授業での活動の切り替え（講義とグループ活動）がうまくいかなかったところや、活動の意味を深く理解するということが課題だったようである。これは筆者が今後、留意すべき点でもある。特に活動の意味を深く理解することは、この科目で重視していたことなので、もっと内容（学習指導要領、等）と関連させるなど、改善を図りたい。

Bさんはスピーチの聞き方や自分が話した時のことを評価している。また、ビデオ視聴とそれまでの説明・学習との関連化ができたと言っている。さらに、生徒の立場を理解したり、内容をどう活用するかについて理解できたということで、学習内容の関連化・活用ということを意識的に行っていたことが伺える。各回のコメントの内容もそのことを裏付けるように丁寧なものであった。課題として、特別活動の変遷についてあまり覚えることができなかったと書いているが、このことは本科目が記憶を問うような活動（試験など）を設定していなかったことにもよると思われるが、知識が生かされるような機会について工夫する必要がある。

Cさんは4年生で、おそらく就職活動もあると思われるが、授業参加を課題としてあげていた（最終的に規定の回数以上、出席はしていた）。また、班で時間内に意見をまとめることができなかったと言っているが、これは班で話し合いを促進できなかったという、班のメンバーシップ…班のメンバー構成の課題も考えられる。偶発的・仮構的に班を編成しているので、上手くまとまらない人的構成になる可能性もある（まあ、それが現実の世界であるが…）。また、課題がやや難しく、その時間内では達成が困難なことも考えられる。このあたりのメンバー構成や課題のあり方をもう少し考える必要があるかもしれない。あと、教師の同僚性、協働的活動の意義を指摘しているが、これは、まさに協働的なアクティブ・ラーニングを行った成果ともいえるよう。

○授業でのコメントの検討…抽出学生（Dさん）の事例

*この学生を抽出した理由は、授業時の活動やコメント表などを見て、アクティブ・ラーニングとして非常に意味のある活動を行っているように思えたこと

による。

【第1回】

班ごとの報告で出席確認およびコメントを確認したので、個別のコメントはなし。

【第2回】

今日、初めて2分間スピーチが始まった。3人とも、それぞれ個性が出ていて面白かった。児教以外の教職の授業では年齢の幅も広いし、自分が所属している学部ではない学部の方もたくさんいる。人の話を聞くことは、自分が知らなかった新しいことが聞けるし、その人の考え方も感じ取れるので面白い。せっかく教職の授業をとっているの、この授業でまだ知り合いになっていない人と話してみたいと思った。やはり、きっかけがあると話しやすいので、前回の授業のようにグループワークをできるならたくさん取り入れてほしい。

今日は特別活動の歴史について学んだが、日本ではもともと儀式的なものとして始まったことを始めて知った。やり方や意味はだいぶ違うが、明治期の日本と現代の日本で、例えば運動会や遠足、学芸会などやっていることはあまり変わりが無いのだなと思った。

【第3回】

特別活動の歴史として昭和期をふり反って教育の場が戦争のために利用されていたことを再認識した。児童・生徒にとって教師は身近な大人の一人だから本当に影響が大きいと思う。生徒と話す時はいつでも、そのことを心にとめておかなければと思った。

運動会のピラミッドの問題はとても難しい問題だと思う。保護者から厳しい要求をされないように日ごろから生徒とだけでなく、保護者とも信頼関係を築くことが大切だと思う。塾のアルバイトで…略…。

【第4回】

中・高校（私立一貫校）の時の自分は学校のプログラムで国際交流の機会があったとしても部活で忙しくて全く関心がなかった。でも、今、振り返ると参加しておけばよかったと後悔している。だから自分が教師になったら国際交流の機会を与えるだけでなく、なぜそういう活動が必要なのか、どんなこと

をするのか、学べるのかなど詳しく伝えて国際協力に興味をもってほしいと思った。

【第5回】

色々な人の特別活動の話を聞いて皆さん本当に様々なことを経験しているんだなと思った。皆、話が止まらなくて「こういうこともあった!」とか話せば話すほどたくさん出てきてやっぱり印象に残る活動はこういう経験的な活動なのと感じた。その時学んでいる教科と地域社会を上手く結びつけていた先生もいればとにかくやりたいことをおしつけている先生もいてやりかたには注意が必要だと思った。

【第6回】 欠席

【第7回】

コメント課題

「本講義や今回の体験活動を踏まえて、『構成的エンカウンター』の意義と思われる点、および、実施する際に教師が留意すべき点についてコメントして下さい。」

やはり意義は他者理解だと思う。今日、自分が体験してみて他人の考えも気持ちがよく 分かる実感することができた。また、クラスの中で長く続けていると、〇〇さんがいつもよく積極的に発言するのに今日は元気がないなとか「いつもと言っていることが全然違うな」とかお互いの変化にも気づくことができると思った。

こういう活動をする際には、どんな発言をしてもいいけど他者を傷つけるような発言だけはしないようにとあらかじめ言うておくことや、あまり他者に自分の意見を言えないような生徒も自然にグループの輪に入って会話できるような雰囲気づくりに注意をする必要があると思う。

【第8回】

ピアサポートは全国の学校で実施していくべきだと思う。

【第9回】

何を1番伝えたいかを考えるのが難しかった。薬物は使ったらダメというのは中3生でも分かっていると思うので、私達の班ではそういう状況にまきこま

れそうになった時に周りの意見に流されて自分も薬物乱用してしまうのが問題だと考えた。教科の授業では「めあて」や「ねらい」をはっきりさせる必要があると思うが特別活動では言う必要があるのか、言ってもいいのか迷った。

【第10回】記述なし（班で作成した指導案を提出させたが、授業終了間際だったので、コメント表には、あれば一言ぐらいと指示したので今回は書いてない学生も多かった。）

【第11回】

自分も生徒会に所属して活動していて、その活動をふり返ってみると先生から提案されたことや毎年生徒会が行っていた活動がほとんどだったと思う。

今なら、もっと自分達の学校生活に即した意見を出せると思うけど、中学生の時は特に生徒会の本当の意義に気づくのは本当に難しいと思う。自分が教師になった時には、その部分に気づかせたい。

最後の話し合いは面白かった（笑い）

【第12回】

高校生の時、学年主任の先生がカリスマ的存在でした。古典を教えている男性の先生だったのですが、勤務力や進路指導など色々な面に関してとても頼りになり、信頼できる先生でした。体育祭や文化祭の前、テスト前には必ず学年集会があって学年としての集団をとっても意識できていたと思います。そのおかげか、文化祭や体育祭で自分達がひっばっていく学年の時も皆で協力できたし受験も団体戦という意識で臨めました。…略…学年の力の大切さを感じました。

【第13回】

年齢を重ねると、あの時のあの活動はあんな意味があったのだなどと気づくことが多い。活動をしている時にその活動の意味や目的を理解しながら行うことはもちろん大切だが、当事者の時は目の前の活動を行うだけで精一杯になることが多いと思う。完全に理解した上で活動しなくても得られることはあるし前向きに取り組むきっかけをつくるのが大切だと思った。

【第14回】

できるだけ全員参加の話し合いで進めていきかけたけど、真剣に考えて意

見を出してくれる人と少し暇そうな人がいてそういう話し合いにするのはやはり難しいと思った。文化祭は学びの発表会という面が大きいと思うが、生徒が自分達でやりたいと思うのが1番いいと思う。 *筆者注…この回、Aさんは司会者の一人を担当した。

【第15回】

自己評価

・関心、意欲、態度

毎回のテーマに関心をもって受けることができた。また、毎授業で行ったグループ活動では考えたことを積極的に発言できた。他の人に共感する時も違うと感じた時も発言できた。しかし、毎回ほぼ同じメンバーのグループだったので回数を重ねるごとに発言しやすい環境になっていたという側面もあると思う。

・思考、判断、実践

毎回の特別活動を考える際に「なぜその活動を行うのか」を理解した上で、活動することが大切という結論が多かったように感じたが、十分に理解してからでなくても学ぶことは多いはずだということを考えることができた。授業から興味を持ち、授業で紹介された学校以外の学校の行事についてレポートを書く際に自主的に調べることができた。

・知識、理解

まず特別活動と教科外活動の定義の違いについて理解することができた。学習指導要領や特別活動の歴史について詳しく理解するまではできなかったと感じる。

*上記の下線は筆者によるもので、アクティブ・ラーニングの観点から見て注目すべきと思える箇所に引いた。

Dさんはスピーチやグループワークへの言及（第2回、第5回）にみられるように、初期段階からこの授業の諸活動に関して積極的に学ぼうとしていた。また、自分の特別活動の体験と講義での内容をよく結び付けるなど、関連的な学習を進めていた（第3回、第4回、第12回など）。さらに、グループ活動や自分の役割についての振り返り（reflective thinking）も積極的に行っている

(第5回、第14回)。そして特筆すべきは、自分なりの問題意識（特別活動では生徒に最初から教科指導のように「めあて」をよく理解させてから活動をさせるべきか否か）を持ち、その追究を粘り強く行っている点である（第4回、第9回、第11回、第13回、第15回）。最初は、めあてをはっきりさせる、活動の意義をわからせてから取り組ませる、という意見であったようだが、次第に、活動の中でめあてが子どもたちに理解されていくこともあることや、むしろ、活動へのきっかけづくりを用意することが大切という、より現実に即した考えに至っている。第13回で、「完全に理解した上で活動しなくても得られることはあるし前向きに取り組むきっかけをつくるのが大切」と記している。）この、自分なりの問題意識を持つことの重要性については、筆者は漠然と感じつつも、本講義で具体的な手立ては特に行ってなかったのも、このような意識を持って学んでいる学生がいることを発見して、驚きと喜びを感じた。これは教師になった際にどう考えて指導するか、という実践知の形成にも通じる深い学びであり、ディーブ・アクティブラーニングといってもよいのではなからうか。さらに、講義以外に自分で他の学校の行事を調べるなど、発展的な学習活動も行っているのである。ただ、次年度以降、このような深い学習がDさんのように一部の学生のみ起こるのではなく、もっと多くの学生に生じるよう、考慮する必要がある。

Ⅲ 本講義（教科外活動の研究）に関する調査アンケート

本講義の最終回1月21日に実施した。回答は31名である。（出席者32名 本講義の登録者は40名 単位修得者は32名）各項目の右側の数字は5件法での回答の平均値である。また、自由記述もすべて載せている。

本講義では、個人のスピーチ活動や班ごとの話し合い・発表といったアクティブ・ラーニングを取り入れましたが、このことについてお尋ねします。以下の質問で、当てはまる項目に○印をつけて下さい。

- 1 そう思わない ←→ 5 そう思う の尺度でお願いします

1 アクティブ・ラーニングの意義について

- ①特別活動に関する重要な概念・内容を理解するうえで役に立つ。…4.61（回答の平均値。以下同様）
- ②特別活動を指導する意欲が高まる。…4.65
- ③特別活動の指導技術（アクティブ・ラーニング的な指導）を身に着けることができる。…4.45
- ④特別活動の指導に自信が持てる。…3.65
- ⑤班（グループ）のメンバーの相互理解が深まる。…4.77
- ⑥班（グループ）のメンバーの協力が促進される。…4.77
- ⑦講義の参加者全体の相互理解が深まる。…4.52
- ⑧講義の参加者全体の協力が促進される。…4.58
- ⑨講義への参加意欲が高まる。…4.55
- ⑩視野が広くなり、社会勉強にもなる。…4.48
- ⑪生徒の気持ちが理解できるようになる。…4.39
- ⑫その他（もしあれば自由に書いてください）
- ・実際に、“生徒の立場にたつことができる”という実践がアクティブラーニングの大きなメリットであると感じた。現場にいった時にこの経験を通して試行錯誤すると思うから、教師の1人よがりな暴走を未然にふせぐことができると思う。
 - ・班ごとに考え、発表する形式は非常に良かったと思います。関心・意欲の向上に加え、交流が増え、進路などの情報交換も可能になりました。
 - ・視聴覚教材が非常に効果的だと気づけた。視聴中に、自分の考えを深め、その後、アクティブラーニングで他者と比較できる。時間も明確で授業を構成しやすい。
 - ・アクティブラーニングを積極的に取り入れていて良かったと思います。
 - ・とても楽しみながら授業を受けました。

2 アクティブ・ラーニングの課題について

- ⑬教室はもっと自由に動いたり、向かい合って班がつかれるような環境（移動

- イス、広い空間など)が良い。…4.13
- ⑭もっとスピーチは時間をとった方が良い。…2.74
- ⑮スピーチには質問の時間も設けたが良い。…3.58
- ⑯班(グループ)は最初から固定したほうが良い。…2.03
- ⑰班(グループ)での話し合いの時間をもっと取った方が良い。…2.94
- ⑱教室以外の活動(校外も含めて)も行った方が良い。…3.61
- ⑲本物の活動(行事でなにか実際に行くなど)を取り入れた方が良い。…3.65
- ⑳もっと講義担当者(田代)が、班での活動に対して説明や、細かい指示を出したが良い。…1.90
- ㉑アクティブ・ラーニングよりも、もっと普通の講義(用語や内容の説明など)の時間が多い方が良い。…1.48
- ㉒その他(もしあれば自由に書いてください) *少し内容ごとに整理した。

○肯定的な意見

- ・アクティブラーニングがあったため、講義も真剣にきけ、メリハリのある授業になりとても楽しかったです。
- ・この授業にとっても満足しています。
- ・黒板で説明する授業よりもアクティブラーニングの方が興味もあるし、退屈しないのでアクティブラーニングを取り入れた方がいい。
- ・スピーチはとても面白い試みだと思う。
- ・説明・AL(アクティブラーニング) = 1:1 くらいの今のままでちょうど良いと思う。先生が知識を先に与えずぎてしまうと生徒の自由な発想をうばってしまうと考えるから。

○改善すべき点・課題の指摘

- ・⑯(班は最初から固定したほうが良い)について…発表する時間を最後に設けているので、班を固定しても自然と意見は交換できていると思います。班を固定したほうが、団結力も生まれるし、各班の特徴が出ておもしろいと思います。
- ・スピーチは、きちんと準備されているものであればよいが、準備不足のスピー

ちも多かった。そのスピーチを聞かされるのが嫌だった。

- ・⑮（スピーチには質問の時間も設けたが良い）は、一言でも感想を書くなどできたら良かった。フィードバックでそれをスピーカーに後日配るかたちで（+□）

3 印象に残ったアクティブ・ラーニングについて

- ①今回の講義で特にあなたが良いと思ったのは何回目のどのような活動ですか。その理由も教えて下さい。 *複数の回にまたがる回答は、それぞれの回ごとにカウントし掲載した。

○第14回目 各論（学校行事②…文化的活動） 8件

- ・第14回目の「文化祭のだしもの」について考えた回です。クラスが本当に一つの学級のようなものでした。班での話し合いも、慣れてきていたからか、どの班も積極的に意見が飛びかっていたような気がします。本当に実現させておもしろそう!というくらいのレベルにまで話し合いが活性化し、授業を受けていてすごく楽しかったです。
- ・劇か展示か 自分は「劇推し」だったが意外と展示が多かった。
- ・第14回目の文化祭の内容を考える授業がおもしろかったです。班での話し合いの後、クラス全体で多数決でしたので、学級活動さながらのスタイルで面白かったです。私のチームの案が採用されたので、非常にうれしかったです。
- ・第14回の文化祭の活動について話し合うグループワークが良かった。実際にグループワークを体験して生徒の立場になって考えることができたし、面白い意見がたくさんあった。
- ・文化祭の出し物を決める第14回の授業がよかった。色々な高校の特色を聞けたり、新鮮な意見が出たため。
- ・第14回目文化祭の出し物を決める活動です。それぞれの班がオリジナリティー溢れる提案を聞くのが面白かったからです。
- ・11回や14回などの教室全体で話し合う時間は高校生以来でなつかしく、また楽しかったです。生徒だったときの気持ちを思い出すことができたので、この気持ちを忘れず、教師になって前にたったときに生徒の気持ちを伝える

ようにしたいと思いました。

- ・第13回、14回目 → 実際に学校生活の中で行われる行事のアクティブ・ラーニングのため、生徒の目線で考えることができたから。

○第13回目 各論（学校行事①…体育的活動） 7件

- ・第13回目 運動会の準備
懐かしさと同時に、先生たちが競技やその順番を懸命に考えていたんだなど
思いました。
- ・体育祭のプログラム決めが行いやすかった。なぜなら、選択肢があり、意見を合わせて決めるためだ。ある程度の枠組みがあるため。
- ・13回目のプログラム作り。中々、体育会に関わる内容を他の講義ではやらないから。
- ・体育祭、文化祭の活動決め 実践的で様々な難しさに直面したから
- ・運動会や、文化祭のプログラムを考える活動は、生徒の立場から特別活動を理解するうえで役に立ち、良かったと思います。
- ・第13回目の授業です。先生方がこんなに準備をしているなんて知りませんでした。安全面や生徒の気持ちを考えることはとても難しかったです
- ・第13回、14回目 → 実際に学校生活の中で行われる行事のアクティブ・ラーニングのため、生徒の目線で考えることができたから。

○第12回目 各論（生徒会活動②） 6件

- ・12回目の、図書館の話し合い。とても、現実的な問題を使って、話し合うことができたから。
- ・第12回目の「図書館を24時間利用できるようにすべきか」という議題で生徒会活動を行ったこと。実際の大学生活の不満に思う点を皆で話し合えたのが現実的だったから。
- ・第12回目の生徒会活動 グループだけでなく、全体でも話し合ったため、実際に近い形だったから。
- ・生徒会活動の制服に関するビデオ。

- ・第11、12回目 模擬生徒会を通してどのように生徒の活動を活発にしていけばよいかが分かった。
- ・生徒会活動を実践した授業では、生徒主体で授業が進んでいったし、教室全体がテーマに向けて協力して意見を出していたので良いと思った。

○第11回目 各論（生徒会活動①） 5件

- ・第11回目の「学費の有効利用を考えること」という生徒活動。学費の有効利用については自分自身も考えていて、生徒会活動として不満を発言できたから。
- ・第11回目。自分たちの生活に直接関係があって他人事ではなく取り組めたと思う。
- ・疑似体験として学級活動を経験できた回。（10回目の西南の課題を考えた活動…田代注 これは11回目のまちがい）自分達が生徒の立場になり考えたことができたから。
- ・第11、12回目 模擬生徒会を通してどのように生徒の活動を活発にしていけばよいかが分かった。
- ・生徒会活動を実践した授業では、生徒主体で授業が進んでいったし、教室全体がテーマに向けて協力して意見を出していたので良いと思った。

○その他

- ・第4回目では、国際交流について学んだ。自分が生徒の頃あまりそういった交流会がなかったのでとても興味がわいたし、ぜひどの学校でも行って欲しいと感じたから。
- ・4回目のイートン校、8回目のいじめに関する講義。4回目に関しては、海外に目を向ける高校生の取り組みを見ることで、学生（私の）モチベーションが上がる。8回目に関しては、教師としての必須項目であり、当事者意識を養える。
- ・8回目のいじめの授業は、とても考えさせられるものがあった。ビデオで、他校の取り組みを知り、それを生かして話し合いを行える点がよかった。

- ・SOS活動がいちばんすきでした。なぜなら、全員の視点がそのまま見えました。…第7回のこと
- ・10回目の読書活動の推進。
- ・第15回目。「生徒の意見（アンケート）を大学改革につなげたい」という発言ができる教授は、ほとんどみかけない。そのため、志のアツさが心地良かった。
- ・生徒が司会をし、先生が後付けをするという授業がよかった。実際に先生の気持ちが分かったから。

②今回の講義で特にあなたが良いと思ったスピーチはどれですか。その理由も教えて下さい。

*複数の回にまたがる回答も載せている。

- ・Eさんの汗わきパッドの話。→人にどうやって伝えるか、自分も工夫する必要があると感じさせてもらえたため。
- ・わきあせパッドのスピーチ…説明が洗練された“順序”で行われた。自分はわきあせパッドを使おうと思わないが、そう思っても説明が理解しやすく、おもしろいから聞き入ってしまった。
- ・Eさん？の脇汗パッドのスピーチがおもしろかったです。身近なものの話題でしたが、よくスピーチを考えてきたことが分かりました。
- ・汗パッド(?)に関するスピーチ。どんなものが人の注意をひくかを考えているようで面白かった。
- ・ワキ汗シートの話。物を持ってきて説明するのが分かりやすく良かった。
- ・わき汗パッドの話。自分の日常の部分で面白い発見・思考をしていて話が上手と感じたから。
- ・みなさん、とても個性があって、物をつかったり、堂々と話せていたり、すばらしかったと思います。特に、汗マットをもってきて面白くお話ししてくださった方や、写真を拡大し、見せながら質問もまじえてお話ししてくださった方が、印象に残っています。

- ・ブロッコリーのスピーチは単純に面白かったです。
- ・Bくんのブロッコリースピーチ。ブロッコリーの写真や質問を用意して話も面白かった。ブロッコリー愛を感じた。
- ・ブロッコリー
- ・ブロッコリー?のスピーチ。身近な話題で分かりやすく、何より話し方がかたくなるしくなく教室の雰囲気が1番なごんだスピーチと感じたから。
- ・ブロッコリーの話は、写真があった点でまず興味を持つことができ、また、話も今までにない感じだったので印象に残った。
- ・みなさん、とても個性があって、物をつかったり、堂々と話せていたり、すばらしかったと思います。特に、汗マットをもってきて面白くお話しして下さった方や、写真を拡大し、見せながら質問もまじえてお話しして下さった方が、印象に残っています。

- ・時間の使い方についてのスピーチ。意味のある“休み”と、意味のない“休み”があるという話に刺激を受けたから。
- ・バイクで一週間旅に出た話。さぼりは、どうであれ、ロードムービーのような、Freeな体験がうらやましかった。
- ・自分のスピーチが一番よかった気が。…(笑) 実体験と「サボリ」について関連づけて話せたから。そうです私はツーリング男です(笑)。

- ・よく覚えていませんが、みなさんいろいろなところに旅行や研修に行っていたところが印象に残った。実際に肌で感じることが大切だと思った。
- ・海外経験のスピーチ。留学に行く前だったので参考になった。
- ・海外での経験談を話してくれたのが良いと思いました。私も多くの国に行きたいと考えているけど、時間もお金もまた英語の力もないので、人からきいて行った気分になれたので得をしました。

- ・先生になりたいと思っているわけを話す方が印象に残っています。みな一人一人教職を受けている理由は違うと思うのですが、すごく参考になりました。

- ・企業をやめて、教師を目指していらっしゃる方のスピーチ。そのような生き方もあるのだと思った。
- ・Fさんの部活を4年間つづけた話。私も似たような境遇なので、気持ちがわかるし参考になったから。
- ・アマゾンで、ガイドがピラニアを指で釣った、というGさん(?)のスピーチ。
- ・日本の都道府県を大学生のうちに、すべて行くというスピーチ。自分も30才までの目標にしようと思わされました。
- ・漫画を初めて買った話。自分も読みたいと思った。
- ・最初の方にスピーチされたHさん。ミッションインポッシブルの話をしていたのですが、ちょうど私も見たばかりだったので印象に残りました。
- ・覚えていない。つまらないスピーチなら多かった。
- ・次第に「すべらない話」になっている気がしてましたが、みなさん良かったと思います。

4 アクティブ・ラーニングの提案（可能性について）

今後、「教科外活動の研究」では、さらにどのようなアクティブ・ラーニングを取りいれたらよいと思いますか。その理由を教えてください。

〈学習の内容や方法・環境構成など〉

- ・話し合った結果をすべてのグループに聞き、誰か1人がそれをまとめることで、意見をまとめることで意見を共有することができそうだなと思いました。
- ・12回のような、現実的なこと（大学生にもかかわること）を議題にとりあげたら良いと思う。より多くの人に関心興味を持ちとりくめると思うから。
- ・あたりまえに理解していることを、今一度、見直す。(例) しっかり聞く、とは、どういうことか？はつきり話す、とは、どういうことか？また、はつきり話すためには、どのような呼吸をすればよいか、等々。
- ・席が動いたら better です。ありがとうございました。
- ・グループワークも楽しいですが、個人的な活動もあつたら、また違う面白さがでてくると思いました。

- ・もっと、後半で行った話し合いなどを、はやめに取りくめば、より深く話ができるのかなと思いました。
- ・グループの活動時間をもう少し長くしてほしいです。話し合いに時間がかかるので、まとめるのが難しかったからです。
- ・各学期の試験のあと、生徒たちはとてもだるくなります。この時間にたまたま、教科外活動をさせた方がいいかもしれない。授業でグループをわけて、そうしてそういう活動を相談して発表した方がいいかもしれない。
- ・今までの通りのアクティブラーニングでよいと思う。個人的に思うのだが、大学の講義で実際に現職の先生方の話を聞くことが少ない。そのため、教師という仕事の大変さや仕事内容が分かりにくく、現場に行ってから自分の思い描いていたものとのギャップが違いすぎる！ということもあるかもしれない。だから実際に現場の声を聞けるような機会が欲しい。

〈学外学習〉

- ・実際に学校を訪問して特別活動のお手伝いをしてみたいです。
- ・実際の特別活動では教室外での活動もあると思うので、教室外の講義も取り入れると良いのではないかと思います。
- ・校外活動のアクティブラーニング
- ・1時間だけ外に出る。実際に教科外活動をするのがいいと思った。

〈話し合ったことの実現化〉

- ・1つ実際に取り組んでみたい。→話し合いしたものを形にすることで、教師として教科外活動をする際の実感がわくと思うから。
- ・実際に教科外活動の中身を実践してみるのもいいかなと思いました。
- ・実際に課題活動を試してみたりしたりしても面白いと思った。

〈模擬授業の実施〉

- ・グループで一つの特別活動の授業をつくって実際にやってみる。
- ・グループで教科外活動の模擬授業を行う。英語や社会などの模擬授業は行う

が、道徳や特別活動でもぎ授業をする活動が少なく感じるから。

〈その他〉

- ・ グループで話し合って、それからクラスで1つの意見をだすという方法は、とても楽しかったし、生徒の自分に戻れる（中・高時代の）感覚があったので、今回のように取り入れていただけたら、みんな楽しく意欲的に取り組めると思います。
- ・ アクティブ・ラーニングをさらに取り入れた方がよい。大学の講義では珍しい授業方法だと思うし、人数も30人程度で学級活動を行っているようだったから。
- ・ これ以上アクティブ・ラーニングをしなくてもよいと思う。知識が身に付かなくなる。
- ・ 田代先生がベストだと思う講義をされればよいと思います。

* アンケート中の下線は筆者（田代）による。その学生の理解や考えが比較的によく示されている箇所や、アクティブ・ラーニングの観点からみて重要と思える箇所に引いた。

IV まとめ …活動内容の振り返りや学生のアンケート、コメント（授業の際に提出）等から

○アクティブ・ラーニングを行って意義があったと思われる点

〈授業への参加〉

- ・ グループ活動やスピーチがあった分、（メリハリ、リズムがついたようで）、学生が比較的、講義を集中して聞くことができていた。受講生が40名と少数だったこともあるが、私語、居眠り、内戦する者はほとんどなかった。
- ・ 回のテーマ（現実的な課題、学生にとって切実な課題）によっては、当事者意識を持って活発に活動に取り組んでいた。
- ・ 全員（途中で履修をやめた学生以外）がスピーチを行った。また、スピーチを楽しんで聞いている学生が多かった。

〈生徒や教職員の理解〉

- ・ 学生が、教える対象である生徒の立場・気持ちを考えることの大切さを理解していった。
- ・ 教師の同僚性、協働の大切さを理解している学生がいた。
- ・ 判断が難しい場面に遭遇した時（運動会の競技種目 組体操で人間ピラミッドをどうするか、など、現実においても悩むような際）の教師の責任や立場について考える学生もいた。

〈学生の相互理解・交流〉

- ・ グループや受講者どうしの理解、交流が深まった。
- ・ 進路の情報交換もしていた。（進路指導も特別活動の範囲なので一応、許容できる）

〈学習成果〉

- ・ スピーチから、印象に残る話の内容・話し方を理解していた。
- ・ アンケートでは知識・理解もある程度できたと回答した者が多かった。ただ、この点に関しては学生の自己評価ではあまり高くなく、理解の詳しさ、深さの点では課題がある。
- ・ 特別活動での指導方法（話し合い活動、相談活動、自分の考えをつくる→違う考えを聞く、気楽な話のできる場を構成する、等）を身に着けたという学生もいた。
- ・ 模擬生徒会活動などではよく考えて、結論に至っていた。
- ・ 模擬文化祭への展示など、面白い提案・アイデアが出ていた。

〈発展的な深い理解〉

- ・ 中学・高校の生徒の時に体験した特別活動と本講義の内容を関連的に考え、体験の意味付けを行っている学生がいた。
- ・ 講義での説明内容とビデオ等の実践場面とを結び付けて理解している学生もいた。
- ・ 自分なりの問題意識を持って、追究を深めていた学生がいた。
- ・ 活動を決めるのが難しい状況（保護者・生徒・教員の間の意見の違い、運動会の競技の選択場面）などで、多面的に考えて判断する学生もいた。

〈学生への理解〉

- ・学生のスピーチや提案、コメントから、次第に、生活者としての学生の姿が見えてきた
- ・学生の生活の様子や、価値観、不満や悩みが見えてきて、学生の世界が少し理解でき、コミュニケーションがとりやすくなった。

〈授業への意欲〉

- ・学生の積極さに対応していく中で、講義担当者（田代）も授業実施への意欲が次第に高くなっていった。

○課題と思われる点

〈活動時間や準備の不足〉

- ・グループで意見をまとめたり、学習指導案の作成の際、時間が不足している班があった。
- ・準備不足のスピーチがあった。
- ・準備不足のスピーチを聞くことをやや苦痛に思うという意見があった（アンケート 1名回答。）
→スピーチの意義や、（あまり大きさではないにせよ）話し方、聞き方をもう少し示したがよかったかもしれない。
- ・講義担当者も相当な労力、エネルギーを本講義に使っていた。否応なしに活性化していたともいえるが。
…どのようなテーマで話し合いをするのか、そのテーマ選び方。提案や発言への対応、コメント。班の話し合いの促進。会議の進め方。活動の予測や統制の困難さ。活動のための雰囲気づくり。

〈学習の方法・環境づくり〉

- ・スピーチへの質問は時間の関係でとってなかったが、（あまり時間をとらないようにして）何らかの形でできたらよかった。
- ・グループワークに比べて、個別の学習活動があまりなかった。
- ・教室環境が通常の固定式机・イスで、机を合わせて班をつくれなかった。前の学生は体をねじって後ろを向いていた。 → 教職では、特に話し合いを

しやすい教室環境が求められる。

- ・ 班によっては、あまり体験や意見を出し合わないようには見えたとこも、少しだけあった。
- ・ 模擬授業の要望への対処も課題である。ただ、模擬生徒会や模擬学級会は（代表者による進行であるが）行った。
- ・ 学外での活動への希望もあった。これは例えば、近くの学校の運動会や文化祭に参加するなど可能性はあると思える。
- ・ 架空のテーマで話し合ったが、一つぐらいは実現化してみたいとの要望が多く、どのように応えるか、考える必要がある。→文化祭の案として出た、早良区の写真展などはいいかも知れない。

〈学習成果〉

- ・ 基本的事項や内容の定着・把握が、どの程度できたのか、やや不明瞭であった。
- ・ もっと、基本的な事項（学習指導要領に記載されている事項など）と、活動との対比をして、概念と活動とを関連させる必要があった。例)「S学院をよくするには」という話し合い → 生徒会活動の目標 「生徒会活動を通して、…よりよい学校生活づくりに参画し…（学習指導要領の記述）など。
- ・ 特別活動を行う上での、自信の形成まではあまりできていなかった。

〈活動・学習内容のバランス〉

- ・ 最初は意識していたが、次第に講義とアクティブ・ラーニング（活動）とのバランスや関連について配慮することが弱くなっていった。後半、活動の意味の説明がやや少なかった。
- ・ 知識をつけたいという学生もいた（当然のことだが）。ただ、網羅的な知識でなく、深い知識を習得させようとするれば、活動の意味づけについて、もっと事前に研究しておく必要がある。

〈発展的な深い理解〉

- ・ 学生の内的な活動（理解、学習の深化）をもう少し意識的に進める必要があった。自分なりの問題意識を持った学生は深めていたようにも思うが、その点の把握・評価の仕方も課題である。

- ・今回は、一回の授業ごとにそれぞれ違うテーマで活動しており、その分、広がりがあったが、深まりが欠けた面もあった。
- ・もっと学生が判断に迷う場面を作り、そこで多面的に考えつつ、明確に決断させる機会を構成する必要がある。

○終わりに

このような実践を試みたが、予想外の効果としては、(一部の者かもしれないが) 学生が生徒の立場のみならず、葛藤状況での教職員の立場・職務についても考えていたこと、また、模擬活動で新鮮な提案を積極的に出したり、学習内容を関連的に考察したり、一貫した問題意識をもって追究したりしていたことである。その意味で、多くの課題はあるが、とにかく実施した甲斐はあったと思う。一方、今回は学内の活動であったが、学生の希望として学外での活動や話し合ったことの実現化への要望が出ていたこともあり、このような活動をどのように実施するのか、今後、考える必要がある⁸⁾。ただその際も、活動の必然性や学生の意識の連続性に配慮する必要があるろう。

なお、本実践は、西南学院大学人間科学部のアクティブ・ラーニングに関するFD活動として、その一部を報告する機会を頂いたが(2016年3月1日 西南学院大学第4会議室)、その際に痛感したのは、講義全般をつらぬくシンプルなテーマ(学習問題)の重要性である。このことは同じ研修会での中村奈良江教授の実践報告(環境心理学…「Affordanceとは何かわかること、きちんと説明できるようになること」を重視した授業)を拝聴した時によくわかった。自分の講義では細かく様々な活動を行っていたが、その分、やや「網羅的」になっていた。シラバスには、公式的・概念的な目標を記していたが、学生がよく意識できるようなレベルにおいてテーマを示してはいなかった。明瞭なテーマ(学習問題)があれば、学習者の個々の活動や経験が結びつけられて、最終的にテーマに関する深い理解に至る可能性が高くなる⁹⁾。ただこれは、教師側が考えて示すだけでなく、講義の目標に関連した「自分なりのテーマ」を学生が意識し、設定することでもいいのかもしれない。実際、前述した抽出学生のDさんは(筆者が指示した訳でもないのに)、自分なりのテーマ・問題意識を

持って追究を粘り強く行い、深い理解に至っていたのである。

[注]

- 1) 文部科学大臣諮問「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について」
2014年11月 文部科学省ホームページ。2016年3月1日検索。
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1353440.htm
- 2) 中央教育審議会答申「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて」
2012年8月 文部科学省ホームページ p9。2016年3月1日検索。
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1325047.htm
- 3) 中央教育審議会答申「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について」
2015年12月 文部科学省ホームページ p16。2016年3月1日検索。
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1325047.htm
- 4) 同上 p42。
- 5) 佐藤学『教師というアポリア 反省的实践へ』世織書房 1997年 p148。
- 6) 松下佳代・京都大学高等教育研究開発推進センター編著『ディープ・アクティブ
ラーニング』勁草書房 2015年 p24。
- 7) 同上 p18。
- 8) この点に関して、浮田英彦・日野資成・伊藤文一・上野史郎・原口芳博『弱みを強
みに変える本気が目覚めるアクティブ・ラーニング』梓書店 2015年 における
「教室から飛び出す授業=アクティブ・ラーニング」(伊藤文一・上野史郎)の箇
所には、様々な、学外での魅力ある実践の報告があり、大変、参考になる。
本科目は特別活動に関する科目なので、例えば、近くの学校の運動会や文化祭の
見学(さらに文化祭では教室展示などで生徒と会話する)、や近郊へのミニ遠足(そ
の計画・実施・評価)、模擬文化祭としての地域の写真展示、などは、それ程の準
備がなくても比較的実現しやすいのではないかと、今更であるが思った。
- 9) 日本の学校教育(初等中等教育)において、優れた教師はこれまでに「子どもたち
自身にとっての学習問題の必要性」を十分認識し、そのことを基盤にした実践を
行ってきた。たまたまではあるが、筆者が別の研究テーマにおいて検討してい
る授業事例にも次のような実践者の記述がある。「…どれほどたくさんの事実があ
ったとしても、そこに子どもたち自身に学習問題がなければ、単に『人から聞かされ
たこと、知らされたこと』にとどまってしまい、とらえかたが表面的になってしま
う…」 馬場 剛『異文化理解を学習していくための視点づくりをどうすすめるか
— 中井町で働くブラジルの人たち —』「考える子ども」(社会科の初志をつらぬく
会 機関誌) 1993年8月号 p64。